

様式第3号（第4条関係）

## 会 議 録

1. 附属機関等の会議の名称 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会（第3回）
2. 開催日時 平成28年10月4日（火） 19時00分から21時00分まで
3. 開催場所 松川町役場 2階 大会議室
4. 松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員  
宮島裕一、奥田稔、松尾貢、北原忍、北林重男、福澤貞和、関克義、森谷岩夫、橋爪和也、寺沢秀文、佐藤清、大島楨男、大原昭彦、澤泰一、鋤柄富男、御子柴弘子、保科義浩、湯澤徳晴、名取裕美  
役場  
町長、副町長、酒井課長、佐々木係長、池田  
北村課長、米山課長、田中課長、下沢課長、小木曾課長、小沢課長、加山局長
5. 議題（公開）
  - （1）JR東海からの説明
  - （2）長野県からの説明
  - （3）次回の開催について
  - （4）その他
6. 非公開の理由（会議を非公開とした場合）  
—
7. 傍聴人の数  
6人
8. 会議資料の名称
  - ・第3回松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会 次第
  - ・松川町リニア中央新幹線建設工事対策委員会資料（東海旅客鉄道株式会社）
  - ・道路改良（松川インター大鹿線）計画 全体図

## 9. 会議の概要

### (1) 開会

### (2) 挨拶

### (3) 会議事項

#### J R 東海からの説明

- ・ 主要地方道松川インター大鹿線改良工事の状況
- ・ 中央新幹線南アルプストンネル（長野工区）新設工事の状況

#### 長野県からの説明

- ・ 道路改良（松川インター大鹿線）計画

### 【質疑応答】

#### (委員)

7月30日にJ R 東海から福与区民全員に発生土候補地の説明をいただき、その後福与区で対策委員会を立ち上げた。区民の意見を集約して、J R 東海、県、町に申し入れを行いたいと考えている。

福与区とすると災害発生の危険性、有害物質の流失、経年によって生成される有害物質の流失について懸念している。

残土を窪地に置くと聞いているが、土砂災害防止法で急傾斜地の特別警戒地区に指定されていると思うが、どう考えるか。

地権者が地元にはいない人もいるが維持管理は、誰が行うのか。

流出水の安全の担保はどのように考えているか。

#### (J R 東海)

発生土については、トンネルの坑口で必ず一日一回土壌汚染の調査をする。その後、3年間はモニタリング調査を行う。

候補地は、すべてが急峻な地形ではない。現在、地権者説明を行っているが、福与区にも計画図を持って説明に参りたい。どういった防災対策をするのかも併せて説明させていただく。土を盛ることによって危険が生じる場合は、法によって許可は下りない。災害発生の危険性を防ぐための計画をしていく。

最終的には、地権者にお返しすることを考えているため、維持管理は地権者をお願いする。発生土を有効活用いただく目的で土を置かせていただくように引き継ぎを行っていきたい。

#### (委員)

設計を進めて安全を確かめると思うが、県の基準によって、県のお墨付きはあるのか。

3年を過ぎた後に有害物質が出ることも懸念されるがいかがか。

#### (J R 東海)

土地改変については、必要な法手続きに基づくもので設計を行う。長野県の設計の手引きがあり、長野県の手引きも国の基準に基づいたものである。トンネルから出てきた発生土については、坑口で発生土をそのまま調査するのではなく、細かくつぶして所定の振るいの目を通ったもので調査するため、経年たつて徐々に染み出すことは基本ないと考えている。

(長野県)

J R 東海の工事に対して、お墨付きとまでは難しい。法的な規制をチェックしていく。法的な問題以外に対してどのように関与できるか検討している。今後お示ししていく。

(委員)

想定外の考えではなく、2重3重の基準を厳しくした設計をお願いしたい。福与区での説明の際には、本来の基準+ $\alpha$ の住民側に立った説明をお願いしたい。

(委員)

生東区とすれば、県道22号線の2車線化をお願いしたい。

中山丸ぼつき地籍地権者への説明会はどうだったか。

トンネル工事は、1日にどのくらい進むのか。

(長野県)

2車線化については、J R 東海から発生土置き場の具体的な計画が示されていないので、現段階では決められない。

(J R 東海)

県道22号線の道路改良は、最終的にしっかり県が管理する道路として残せるように長野県と協議していきたい。

中山丸ぼつき地籍地権者へは、計画図の説明をさせていただいた。測量、地質調査等のための調査をすることは、説明会にお越しいただいた方にはご了解いただいた。地権者説明会に見えられなかった方には、個別に対応している。

トンネル工事は、1日に5m~6m進む場合もあるが、2日に1mしか進まない場合もある。状況によって変わる。

(委員)

1日1回の調査では、少ないのではないか。

(J R 東海)

1か所の現場で1日1回の土壌汚染の調査をしている工事現場は少なく、1日1回の調査は多いと認識していただきたい。また、調査方法については、県の環境部にも確認をとっている。

(委員)

300万 $m^3$ とは、どのくらいの量か。

(J R 東海)

10トンダンプで5 $m^3$ を積載。東京ドームは、124万 $m^3$ であるため、約2.5倍ほどにな

る。

(委員)

地権者に説明して残土候補地が決定してから、福与区で説明するという手順か。

(J R 東海)

現段階では、地権者に概略図で説明している。あくまで地質調査等を行うための説明会である。

(委員)

福与区で説明会を聞いて、反対意見や不安、疑問等が多くあったと思うがどのように受け止めているか。

(J R 東海)

福与区に何回か足を運んで説明していきたいと思っている。7月の説明会では、発生土置き場の資料を提示していない。大鹿村から出る300万m<sup>3</sup>が急傾斜地に盛られるのではないかという不安があったのではないか。今後は、計画図をご覧いただいて、どのような形で盛られるのか説明をさせていただきたい。

(委員)

県は、法的な問題以外に対してどのように関与できるか検討することだが、検討はいつ終わっていつ検討結果が出るのか。

(長野県)

できるだけ早く結果を示していきたいと思っているが、現段階では説明できない。

(委員)

地権者に了解を得られてから福与区に了解が得られなかったらどうするのか。いつの段階で残土受入を諦めるのか。

(J R 東海)

発生土置き場了解には、時間がかかることは承知している。発生土置き場が決まらなければ工事がストップする場合もある。何度もご説明していくが、非常に難しいと判断した時には違う方法を考える。

(委員)

福与区にしてみたらいいことはない。福与区への対応をしっかりともらいたい。

(委員)

県道伊那生田飯田線をダンプが通ることになった場合、住民の生活の安全のためにどの程度なら許容範囲なのか県の基準を聞きたい。現在1時間に120～130台片道通っている。

(長野県)

公道のため、台数制限はないが、2車線ではないところもあるため、対策はJ R 東海から具体的な計画を聞いて検討したい。

(委員)

残土置き場の安全性の問題、運搬路の安全確保の２点が大きい問題。安全の確保はJR東海の自主規制なのか地元と協定を結ぶのか。

(JR東海)

環境影響評価書に記載してあるが、細かい時間帯や交通誘導員をどこに設置するかは、地元の皆様と決めていきたい。説明だけで不十分で文書を取り交わしたい要望があれば確認書のようなものを取り交わしたい。

(委員)

大鹿村で発生した土の松川町以外の残土置き場の計画は。

(JR東海)

大鹿村で発生した土に関しては、現在松川町の候補地をお願いしたいと考えている。現時点で他に残土を運搬することは考えていない。

(委員)

福与区での説明で了解が出た後に県道伊那生田飯田線の道路改良の話をしたと考えている。

(下沢課長)

県道伊那生田飯田線の交通量が増えた場合の道路の安全性は確認しているのか。

(長野県)

現時点では確認していない。今後確認していきたい。

#### (4) 次回の開催について

発生土置き場の進捗状況と庁内幹事会の進捗状況によって決めていきたい。決まりましたら委員の皆様にご通知します。

#### (5) その他

#### (6) 閉会

以上